第１回伊勢市人権施策審議会　議事録要旨

議　事　概　要	
会議の名称	令和７年度第１回　伊勢市人権施策審議会
開催日時	令和７年８月１日（金）10:00～11:20
開催場所	伊勢市役所　本庁舎東館４－３会議室
出席者 （敬称略）	20 人中 18 人出席 【出席者】 会長　　鵜沼　憲晴 副会長　　藤原　香代子 委員　　水島　徹 委員　　本村　鏡一 委員　　西城　宏樹 委員　　伊藤　弘 委員　　竜田　和代 委員　　小林　えり子 委員　　岩﨑　三安子 委員　　大野木　宏美 委員　　小林　初美 委員　　黒坂　泰之 委員　　宇野　善正 委員　　向井　慶和 委員　　山口　颯一 委員　　川上　香里 委員　　中川　靖美 委員　　中西　康之 （事務局） 環境生活部長　　大西　隆 人権政策課長　　宮本　幸夫 同課　　西井　有希 同課　　西川　翔大 【欠席者】 委員　　前村　裕司 委員　　山崎　静子
傍聴者人数	０人
会議の公開・非公開	公開
審議の概要	１　開会 ２　会長・副会長の選任 ３　伊勢市人権施策基本方針掲載施策の実施状況について ４　その他

概　要

（１）開会

（２）会長・副会長の選任

〇会長に鵜沼憲晴委員、副会長に藤原香代子委員を選任。

（３）伊勢市人権施策基本方針掲載施策の実施状況について

〇事務局による説明

・資料に基づき、人権施策基本方針に掲載されている施策の令和６年度の実施状況、取組の成果や課題及び今後の方向性について説明。

・伊勢市総合計画後期基本計画の策定時期にあたることから、後期基本計画の柱として考えている啓発の推進に関わる部分に特化して説明、ご意見をいただいた。

〇質問・意見等

・６ページの女性の人権について。今後の方向性でぜひ具体的に取り組みをお願いしたい件がある。この春ぐらいだったと思うが津市の市会議員の「公共トイレに生理用品を置いていなくて慌てた」というＳＮＳの投稿に、すごい反響があった。女性からもそれは女性のたしなみであろうとか、準備をしていなかった本人の責任だと責任論も出たりして、炎上したことがあった。個人の問題に矮小化するのではなく、女性の特性を考えて、社会的な取り組みをしていかなければならない内容かと思う。津市ではそのような実態を踏まえて、公共トイレに生理用品を常備することを検討していくと聞いているが、ぜひとも伊勢市も公共施設、特に市役所などを中心に取り組んでもらえたらと思う。

・担当の市民交流課の男女共同参画を進めているところにご意見等を共有し、今後方向性等お示しする。【事務局】

・何年か審議会委員をさせていただいて思ったのが、参加する年齢層にかたよりがあり、若い世代に関心を持ってもらう工夫するとよく拝見するが、啓発の方法で何か変化したところや継続していることがあればもう少し詳しく教えていただければと思う。

・若い世代への啓発という部分でいうと、人権講演会の講師の選定で若い世代のが興味を持つようなテーマを選定している。

　他にＰＴＡ役員を対象に、人権啓発講座という年間４回の講座を開催している。若い世代に気づきを持ってもらえるような講座を開催し、役員の中で広げていっていただけるようにと思い開催している。【事務局】

・大人が作ったイベントではなく同世代が動かしているプロジェクト例えば、若

者で作ったチームを育成してチームが動いてくれる、そういうことをしている行政機関がある。若い世代の人権アンバサダーのようなものをしているところもある。学校でいうと先生が主体で動くのではなく、生徒が主体で動く、その方が受動的ではなく能動的に動くかと思うので、視点を変えて動いてみると少しずつ変わってくるかと思う。

基本的に音楽、食事、アートの３つに人が集まってきやすいので、そこにかける人権というふうにイベントを起こす。やはり人は楽しいに集まってくる。講演会で人を選定するのは大事だと思うが、楽しい×人権というのをすると変わるかと思う。

・確かに若い世代は、なかなか来てもらいづらい、集まりづらいところではあると思う。

人権映画祭では高校の放送部が映画を作って出品していただいているところもある。あと、ボランティアで市内の高校生にもご協力いただいており、そういったところをリニューアルしていく必要もあるかと今ご意見いただいて思ったので、今後、検討課題としていきたいと思う。【事務局】

・人権映画祭の話が出たが、人権映画祭の実行委員として関わって 10 年経つが、この 10 年の間にすごく作品のレベルが上がってきてるように思う。高校生の作品もいろいろ考えられていてテーマも一つではなくいろいな方面で今年は出していただいたように思う。しかし、残念ながら参加者がそれほど多くないというのが、実行委員会全体の心配事。啓発の仕方の工夫は今後の方向性として考えていかなければならないかと思う。

・啓発する中で、紙媒体で見ていただく方が多いのが悩みどころである。Ｘや Facebook 等で配信はしているものの、いかに関連づけていろいろな人にシェアされていく方法を模索していく必要があると思っている。いろいろなツールを今後考えていく必要がある。若い世代に目にしていただけるような、画像等を工夫していく必要がある。【事務局】

・ご発言に共通のところがあるかと思いながら聞いていた。

若い人たちに企画立案段階から関わっていただくというのが一つ。若い世代を巻き込むことの一つの有効な手段かと思う。実際にそうした企画をしているということで展開をさらに期待したい。

映画だけ講演だけでは啓発をしてもなかなか若い世代に響かないということもあるかもしれない。おっしゃったとおり、何かのイベントとコラボするという形も一つの手かと思う。それを啓発の様々なツールを使いながら、見せ方を駆使しながら、若い世代ひいては全世代に対して、有効な啓発になり意識改革・改善に向けた施策になっていくならばと思う。

・資料では 12 ページの関連。障がいに関する教育啓発活動の推進で、スポーツ課との関連が挙げられている。

私どもも、市と連携をとりながら障がい者を対象とした体育祭を年に一度開催していた。コロナ禍でしばらくなくなり、今年度再開したが参加できる障がい者の高齢化が進み、以前のような走り回る競技が難しくなった。それで初めてインクルーシブスポーツやパラスポーツの関係の方をお願いして、ガラッと種目を変更した。皇學館大学、高校生、いろいろなところからボランティアの方にご参加をいただいた。初めて障がい者サポーター制度に登録している方にも発信をしてもらい、今までご縁のなかった方も２、３名参加をしていただいたと聞いている。ＳＮＳから入るのは興味がないとなかなか開かれることがないので、繋がりは少ないと思うが、障がい者の仲間たちのことは、知ってもらう、直接触れ合ってもらうことを通して、少しずつ世の中に理解してもらい、協力いただける方を得ていけるのが一番いいかと思っている。

私の息子は、電車通勤をしていて、おかげバスも利用している。電車やバスにあるポスターを結構気にして見ていて、こんなのがあるらしいよと言うので、そういったところに若い方の目に触れるインパクトのあるチラシを貼れば中高生の目に触れる機会も増えてくるかと思う。

自分たち世代でもあまり広報を見ていない方が増えてきている。見た？と言っても知らないという返事をよく聞くので、なかなか広報だけでは難しい時代になってきてるのかもしれないと実感している。

このような会合で高齢の方や障がいの方について議論をいただく中で、障がいの方や高齢の方のために考えていただくことは、最終的にはやはり一般の市民の方にも優しい町になるといつも思っている。人権を通しながらより優しいまちづくりに皆様にご協力いただけたら嬉しい。

・最近、インクルーシブスポーツが障がいのある方、高齢者、子どもなどいろいろな世代が交流できるスポーツとして人気で、いろいろなところで開催されている。いろいろな人が交流していただくことで理解していただくことが必要ではないかと思っている。

また広報をあまり見ていないとのご意見もいただいた。ポスターやチラシは、昨年くらいからアドバイスをもらいながらなるべく目につきやすいような工夫をしている。

今、原爆被災ポスター展を開催しているが、先日までララパークでもしていた。多くの人に見ていただき知識を得ていただけることを継続していかないといけないかと思う。周知の方法を模索していく必要があると思っている。【事務局】

・活動の中で、啓発という部分で大きいのは、保育所、幼稚園での人形劇、小学校、中学校でのボッチャ体験。

子どもたちの啓発に行く中で、親御さんたちの意識が大事ではないかと思っており、その方たちへの啓発をもう少しできればと思っている。

・小学校での啓発の一環であるスポーツイベント等を開催されているとのご意見いただいたが、教育というところで実情等を踏まえて、教えていただければと思う。

・12 ページの障がいに関する教育のところ、皇學館大学の学習プログラムＣＬＬの活動で本校にもボッチャの体験に来ていただいた。
　学校としてはこういうのを増やしていただくと、いろいろな学校が手をあげてそういう種目の普及が進むのかと思う。
　教員も新しいものを取り入れようと思っても、自分たちが習ってさらに指導となると時間がかかるので、学生等慣れている人がスタッフに来ていただけるというのが、非常にありがたい。

・人権啓発講座は、ＰＴＡで各学校から出ていただいて年４回参加している。
　小学校は特に低学年から高学年まであり、いきなり人権と言われてもぱっとわからないが、身近な話題いじめのことなどを交えながら人を思いやる気持ちというのを先生方が工夫されてしていただいていると聞いている。
　岡山県の公園で、乗り物の整備はシルバー人材センターがしていて、障がい者の方が焼いたパンや惣菜を売っている。その公園へ親子が集まってきて、いろいろな人と触れ合えるとてもよい施設。伊勢市も昨年遊具が新しくなったところにそのような核となる施設があると、啓発関係なしに遊ぶために子どもたちが集まってきていろいろな立場の人たちと触れ合える。核となる施設があれば、啓発活動もそこでしていけば、子どもを連れて遊びに行ったときに啓発もできる。予算の関係はあるが、そのような方向で考えていくのはどうか。

・そういった施設等があれば、いろいろな人と交流できる場として非常によいのだろうと思うが、今の市の状況で作りますとは言えない。朝熊山麓公園、大仏山公園にインクルーシブの遊具等を配置しており、そういったところでどういった交流ができるか今後考えていく必要があるかと思う。【事務局】

・ご趣旨としては、様々な方が集まる場所があるとよいという、お話しだと思う。考え方を変えると、そういった様々な方が集まる機会を設けることが大切かと思っている。
　先ほどの情報発信の中でもあったが、イベントに参加したいと普段から思っている方は、自ら情報をとりに行ったりするが、思っていない方には情報がなかなか届けにくい。あまり考えていなかったという方々も、集まれる機会を積極的に作っていくことを今後考えていければと感じた。【事務局】

・10 ページに、地域活動の一つ通いの場の地域への創設とある。
　私は民生委員として 21 年間登校ボランティアをしている。子どもたちと会話す

る中で、ひょっとしたら発達障害かな、ヤングケアラーかなとか服が汚れているというようなことが見えてくる。子どもを育てるのは家族であるが、地域だとも思う。地域の中で子どもがみんなと交流を持って育っていくのではと思っている。

旧沼木中学校で沼木の窓という憩いの場でカフェをひと月に１回している。地域の中で手を結ぶ、高齢者も子どもたちもみんな一緒になってイベントをするというのが今の私の希望。沼木の窓でも小学校の長期休暇には子どもたちを招いて、高齢者と一緒に遊んでいる。そんな中で子どもたちが育っていくのではないかと思っている。やはり手を結ぶということが大切なのではないかと思う。

また、民生児童委員は、行事をするのに予算がない。まちづくり協議会の中で地域福祉委員会を作って、その予算を活用し、子ども食堂をした。年６回すれば社協の補助金が出るが、年３回の活動ではもらえない。活動するのに予算が足りない中で民生委員児童委員は多分活動しているかと思う。

・まちづくり協議会でいろいろなイベントをしていただいて、高齢者や子どもたちが集まって交流していただいていると思う。そういったところで、地域の活性化を図っていただけたらと思うのでご意見として情報共有したいと思う。【事務局】

・会の人も高齢化していて、考え方や動き方もずいぶん変わってきているので、子どもたちということもあるが高齢者にも優しいという観点。寿命も長くなってきているのでそういうことを考えてもらった方が住みやすい。

私達は女性団体、ボランティア団体として、集まってきているので、意識的に何かをすることで元気になるので、一生懸命してもらえていると感じる。

・いろいろな団体が高齢化しているとよく聞く。定年が延長されてきているので、なかなかそういった組織に入っていける状態が少なくなってきているかと思う。

私どもも高齢者の人権をいろいろなところで啓発していかなければと思っている。いろいろな人と交流することで人権というものが理解されていくのであろうと思う。いろいろなイベント等の企画を他課でもしており、そういったところでも啓発していけるように考えていきたいと思っている。【事務局】

・個人的にはやはりまずは出会う場の確保が重要かと思う。実際に様々な方と出会い触れ合うことが人権施策の第一歩。

そのためにも啓発は重要。参加してみたいと思えるような企画、特に若い世代の琴線に触れるような文言、キーワードを駆使しながら、そのために若い世代にも企画に参加いただきながら、どういう言葉が今流行っているのかも含め、SNS等でバズるような啓発の仕方というのも考えていく必要があるという気がした。

（４）その他

〇事務局から今年度の審議会の開催予定について説明。